

企画総務委員会

送付23-14

3月11日東日本大震災を経験した現時点で改めて（仮称）東松下町計画の  
見直しを求める陳情

受付年月日 平成23年6月21日

陳 情 者

## 陳情書

(趣旨)

旧千桜小学校はいわゆる復興小学校です。関東大震災の経験から公開空地の機能も持っていました。学校統廃合では、隣接公園のない学校を廃校にした、というのが当時の教育委員会説明です。(仮称)東松下町計画で、廃校後20年も経たない今、千桜小跡地は、公開空地としての機能も失おうとしています。基本的には公園を廃止してはいけない、と法的に決められております。ならば、実質的に公園としての機能を持った跡地を無くすという事は納得できない所でもあります。

3月11日に強震です。三陸海岸を大津波が襲っている丁度その時、目の前の千桜小学校跡地には人々であふれかえり、関東大震災の復興シンボルである昭和通りは一晩中帰宅困難者と車の大津波でした。校舎を残しておけばよかった、と何人もの方が思われたようです。

公園をもたないこの地域から、唯一の公開空地すら無くしてしまうことは、この状況を経験した区民として容認することはできません。

それから詳細は不明ですが、跡地には60メートルを超す区営住宅が建設されるという計画です。今回の地震の不安から、高層マンションをせっかく購入したのに手放す人が続出している、との報道もされています。高層住宅が区営住宅として適切とは考えられません。又、適切であるという説明も一度もされていません。区の方針は震災時には3日間は屋内で待機せよ、ということです。しかし、私自身の経験でも、地震に遭遇した後、恐怖で家に留まることはできないようです。60メートルの高層住宅ではと疑問を禁じ得ません。

関東大震災以来、東京のまちづくりは「防災」を中心に据え、道路、小学校、公共施設を整備していたと聞きます。物理学者寺田寅彦氏も述べています。「天災は忘れた頃にやってくる」だから「防災」が大切なのだと。しかし、避難所といえば物資置き場である、と認識されているようです。耐火建築地域などの施策を進める中で、防災課からも区に避難所は必要ないとのことでした。

毎日、東北のニュースが流れています。その度、地域の中心となる復興拠点、空地の重要性について考えさせられます。当該計画についても、「防災の拠点」を最優先させることが欠かせません。

百年近く、空襲以外何の災害も無かったこの地ですが、3月11日改めて天災とは何なのかを教えられ、子や孫へ、最高の安全を持ち送りたいと思いました。本計画を見直し、良好な環境と命を守る施策を推進されることを切に陳情致します。

平成23年6月21日

千代田区議会議長 小林やすお 殿